



茨木市立沢池小学校 令和5年(2023)年2月22日 2月第2号

令和4年度・学校自己診断より

今回もアンケートにご協力いただきありがとうございます。今回はこれまで肯定的回答の多い設問を割愛し、茨木市全体で取り組んでいる“非認知能力”の指標に関する設問を設けました。以下のような指標にそって、学年や校内委員会(人権・支援、生活指導、学力向上、体力向上)で考察し、今後の指導の参考にするとともに、保護者・地域のみなさまにお知らせします。

- ◇ゆめ力：未来に向かって、努力できる力
- ◇自分力：自分と向き合い高める力
- ◇つながり力：他者を思いやり、つながる力
- ◇学び力：興味関心を広げ、意欲的に学ぶ力
- 安全・安心：上記以外の指標で、学校のありかたにかかわる設問など

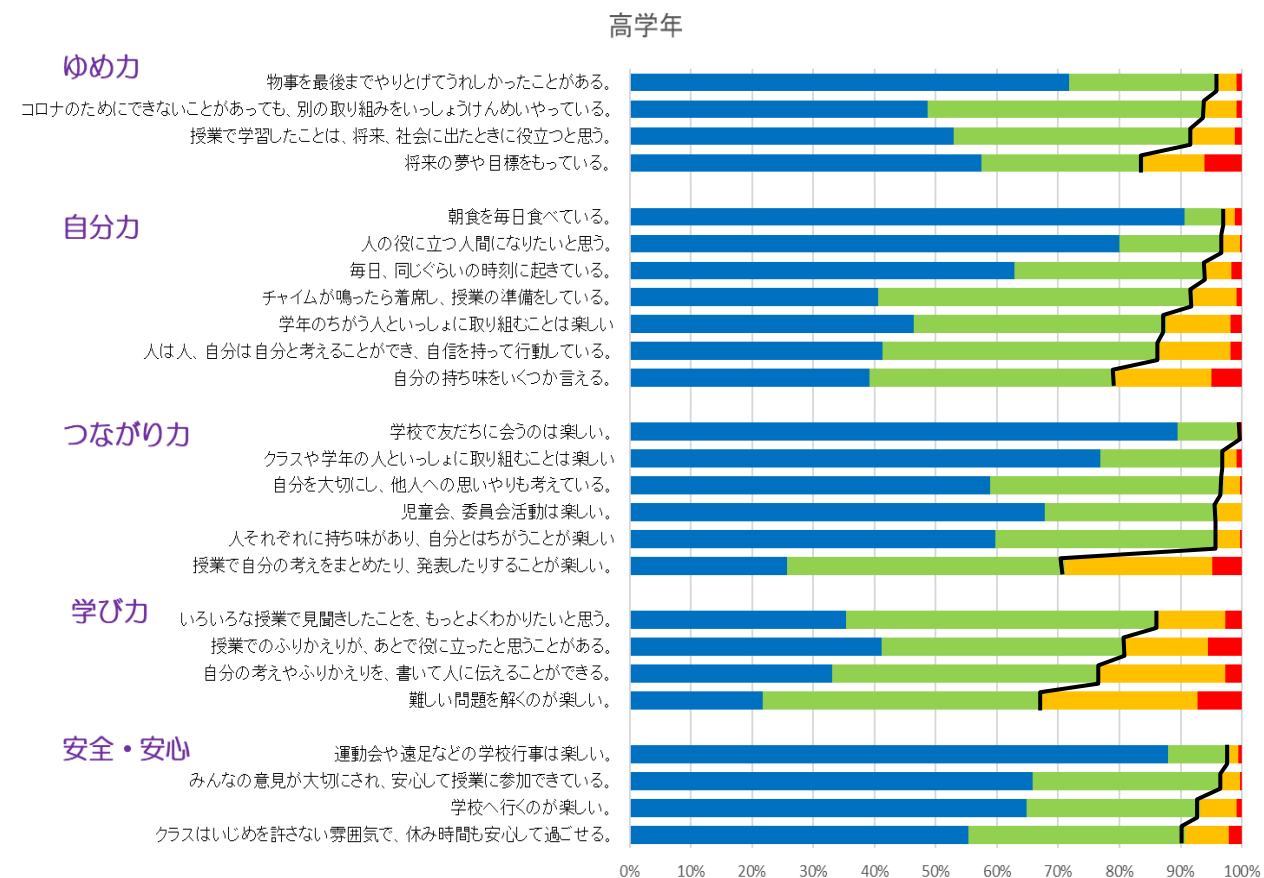
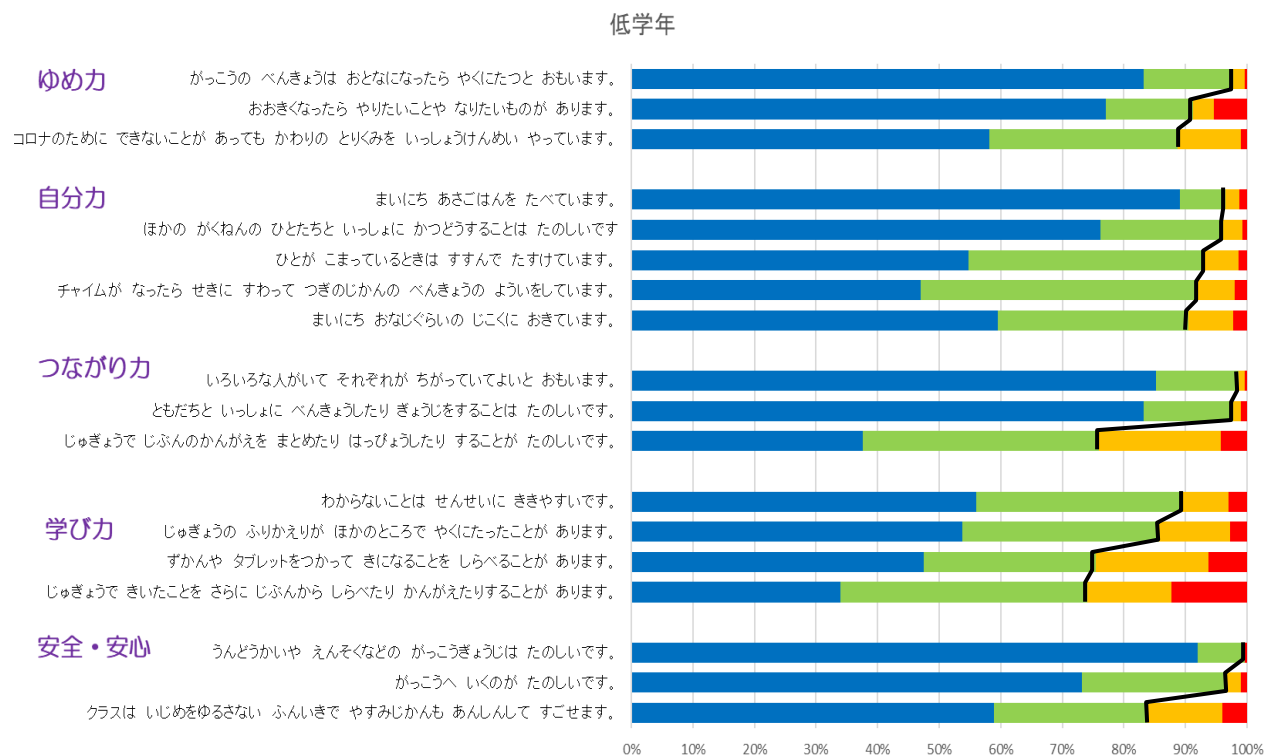
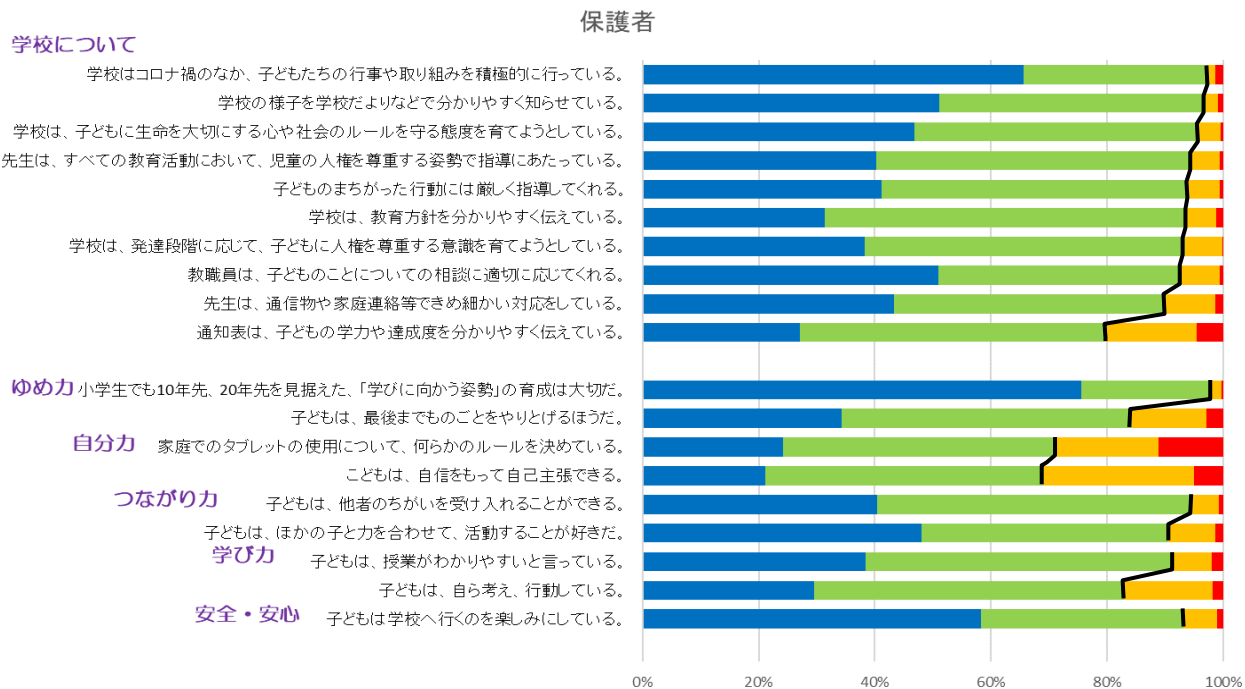
＜グラフの見方 (グラフは裏面 沢池小ホームページではカラー版を掲載)＞

- ・設問については、4つの回答選択のパーセンテージを算出し、

「よくあてはまる(そう思う)」は青色	()	} 肯定的回答
「おおむねあてはまる(少し思う)」は黄緑色	()	
「おおむねあてはまらない(あまり思わない)」は橙色	()	
「あてはまらない(思わない)」は赤色	()	

と色分けした帯グラフにしています。なお、「わからない」と無回答については今回のグラフに加味していません。

- ・「よくあてはまる(そう思う)」と「おおむねあてはまる(少し思う)」を肯定的回答とし、肯定的回答の多い順に設問を並べ替えしています。



裏面に考察を掲載しています

<児童の回答について>

全体的には肯定的回答が9割を占め、なにごとにも前向きにとらえている児童が多かったです。そのなかで「学び力」の肯定的回答がほかより低く平均8割ほどでした。学校で過ごす時間の過半数は授業時間で、学習に関わる具体的な設問には今ひとつ、積極的に答えられない傾向が高学年ほど見られました。

◇ゆめ力

- ・「学校の勉強は大人になったら役に立つと思います。」が高く、学習が将来に必要なこととして、低学年も高学年も捉えています。「学び力」が他よりも低位ではありますが、学びに後ろ向きではないと考えます。
- ・高学年では「物事を最後までやりとげてうれしかったことがある。」も高く、やりとげられる課題の設定、達成後の評価（言葉かけ）など、これからも継続したいです。



◇自分力

- ・「学年のちがう人といっしょに取り組むことは楽しい」が低学年より高学年が低くなっているのは、年上としてのふるまいに苦労するからでしょうか。でもそれが子どもを成長させると思っています。一方で自由記述では異学年交流の取り組みをもっととの声がめだちました。本校の特色である「縦割り活動」ほか、異学年交流を積極的に行うことと、そのような取り組みに躊躇する子どもたちにもやりがいを持たせるしかけも必要と考えます。
- ・「人は人、自分は自分と考えることができ、自信を持って行動している。」および「自分の持ち味をいくつか言える。」が低めでした。次回も同じ問いかけをしてどうなるか、その基準とします。教員からの評価やさまざまなしかけのほか、子ども同士による他者評価も上手に取り入れたいと思います。また“持ち味”は特技や優れていることではなく、自分自身にある多様な面を客観的に見ることができると考える機会も設けたいと思います。

◇つながり力

- ・「授業で自分の考えをまとめたり発表したりすることが楽しいです。」が低学年、高学年とも低めです。学校では「表現」について力を入れていますが、子どもたちの苦手意識は根強いようです。表現の機会を増やす、表現できたことを肯定的に評価するなど、地道に、意識的に継続し、より豊かなコミュニケーションをめざします。



◇学び力

- ・「授業で聞いたことをさらに自分から調べたり考えたりすることがあります。」「図鑑やタブレットを使って気になることを調べることがあります。」は低学年では低めでしたが、まずは学習の基礎・基本を身につけ、段階的に自発的な調べ学習をしていきます。今後は比較対象として、高学年でも類似の設問を設けたいと思います。
 - ・「自分の考えやふりかえりを、書いて人に伝えることができる。」はこの3年間、沢池小の学力向上の柱として取り組んできましたが、やや低め。「書くこと」は文字や言葉の知識の習得、発表・表現の手立てのほか、手指の運動による脳への刺激と成長促進、記憶や思考の整理、ほか生きる力に欠かせません。今後も多方面から「書く」手立てを追求していきたいと思います。
- 入学以来この姿勢で過ごしてきた低学年は高学年よりこの値が高く、「考えやふり返しを書くこと」が定着してきたことがうかがえます。

- ・「難しい問題を解くのが楽しい。」が低いことについては、その機会（課題の質と時間）が十分であるか、評価が努力に見合っているか、何より知的な挑戦が授業に組み込まれているか、私たちの授業づくりを問い直しています。小学校は基礎・基本の習得が第一ではありますが、授業に物足りなさを感じている子どももあり、良問と出会わせること、自ら問いを見いだし解決していくことにつなげていくことができればと思います。



○安心・安全

- ・「クラスはいじめを許さない雰囲気、休み時間も安心して過ごせる。」が低めでした。いじめ（的なこと）を見逃さない。あとで知ったとして、そこから迅速に動く。教員一人で抱え込まない、隠さないなど、教員の指導体制をしっかりとっておかねばなりません。また「いじめはいけない」のような画一的な指導で終わらせず、どの立場の子どもの心情にも迫る姿勢を持ち、どの子にも起こりえることとして捉えておきたいです。

<保護者の回答について>

◇学校に対して

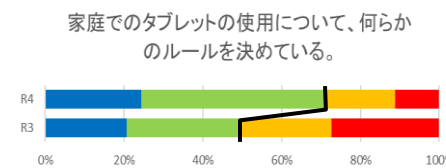
- ・「通知表は、子どもの学力や達成度を分かりやすく伝えている。」が低めでした。以前の形式から変わって3年目ですが、3観点の“あゆみ”はまだまだ定着していないようです。でも今のあゆみは以前よりかなりたくさん評価資料や行動観察に基づき、時間をかけて作成しています。また、“あゆみ”以外の返却物や口頭でもいろいろな評価を児童に返しています。“あゆみ”だけが評価ではないことをご理解いただきたいと思います。

◇わが子に対して

- ・「小学生でも10年先、20年先を見据えた「学びに向かう姿勢」の育成は大切だ。」は高い値でした。当然と言えばそうなのですが、ここでしっかり確認することができました。今の児童の指導も大切ですが、未来の大人に関わっていることも私たちは（再）認識しています。
- ・「こどもは、自信をもって自己主張できる。」が低かったです。控え目、引っ込み思案、ほかいろいろと考えられますが、子どもの自己有用感、自己肯定感、自尊感情を多方面から高めるアプローチを考えます。

<経年変化（グラフは次ページ）>

- ・児童のアンケートでは昨年度と比べ大きく変化した設問はありませんでした。児童や保護者が卒業・入学で入れ替わっていくことでもあり、経年変化にとらわれすぎてもいけないと思いますが、「わからないことは先生に聞きやすいです。」が徐々に伸びてきているのは喜ばしいと思います。
- ・保護者アンケートでは全体的に肯定的回答が右肩上がりか高め安定で、肯定的回答が9割を超えていました。おおむね沢池小の教育活動を評価していただいていると考えますが、それに甘えず、今後も学校運営を行っていきます。
- ・家庭でのタブレットの使用ルールについては、昨年度の5割から7割に増加しています。ありがとうございます。今年度より系統立った指導カリキュラムを作成し、改善を加えて3年目を迎えたいと思います。

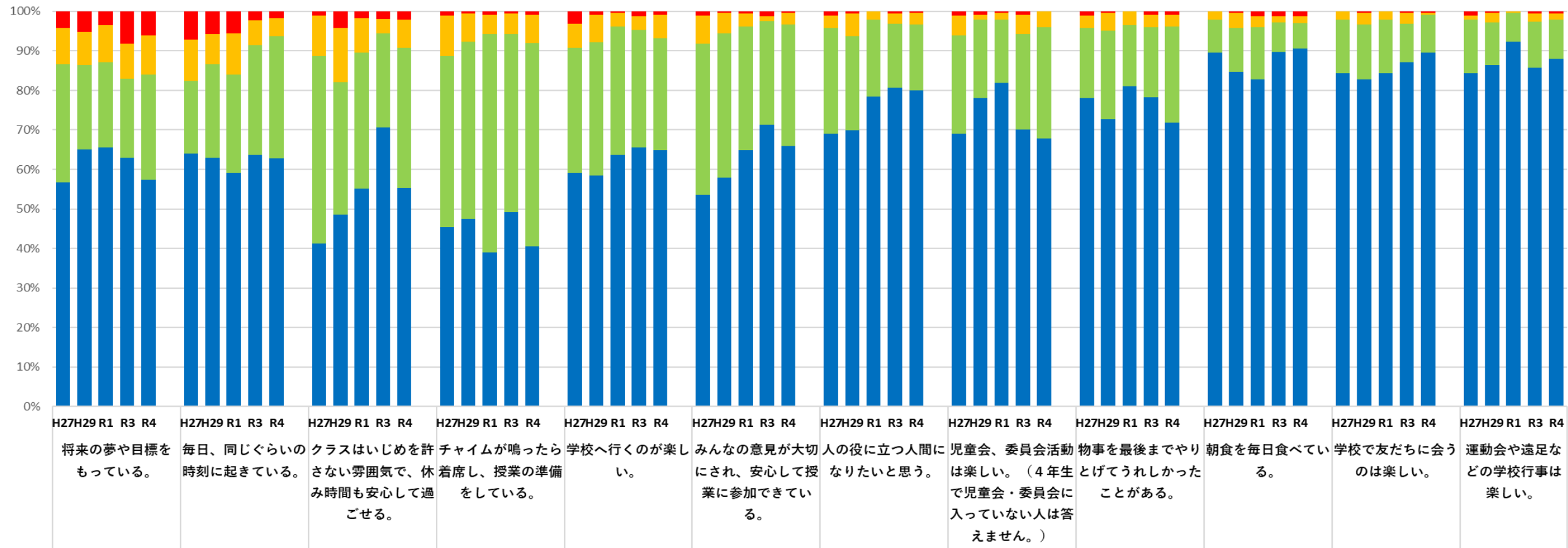


<自由記述について>

高学年と保護者の自由記述についてはこの紙面では取り上げませんが、全文を教職員で共有しており、今後の参考に致します。学校へのエールもたくさんいただき、ありがとうございました。

<経年変化>

高学年



低学年

保護者

